

「グローバルニッチトップ™」「エリアニッチトップ™」戦略を推進し、成長・変化し続けるグローバル市場で事業を展開するNittoグループでは、今や売上高も従業員数も7割以上を海外が占めています。このような環境において、キーワードは「多様性」と「人権尊重」。これらを重視した雇用と人財育成を実現しようと努めています。

雇用

将来を担う人財は、従来にもましてグローバルに活躍することが求められています。Nittoグループは、多様な人財が持つ能力を最大限に活かすべく国籍や性別を問わない雇用を推し進めています。

Nitto本社が採用する全社採用の新入社員もバラエティに富み、2014年度は28名中7名が外国籍。また、女性が7名と、女性の採用も積極的に行っています。

女性の活躍推進

Nittoグループの管理職のうち女性は約12%ですが、エリアによる格差が目立ちます。とりわけ少ない日本では、2012年度にプロジェクトを立ち上げるなど状況を改善する取組みを行っています。

ダイバーシティの勉強会に参加

女性の活躍が遅れている日本では、官民一体での支援強化を提言しました。Nittoグループも女性の活躍を推進すべく、Nitto本社から女性管理職2名が「ダイバーシティ西日本勉強会」に参加し、他社との意見交換をしています。



エリア別の女性管理職の割合

アメリカエリア	31%
ヨーロッパエリア	14%
南アジアエリア	29%
東アジアエリア	23%
日本	2%
グループ全体	12%

(2014年3月現在)

役員が多様化

Nittoグループでは、女性役員は在籍しないものの、外国籍の役員が活躍しています。

エリア別の外国籍の役員数(延べ数)

アメリカエリア(21社)	30人
ヨーロッパエリア(16社)	17人
南アジアエリア(18社)	9人
東アジアエリア(34社)	21人

(2014年4月1日現在)

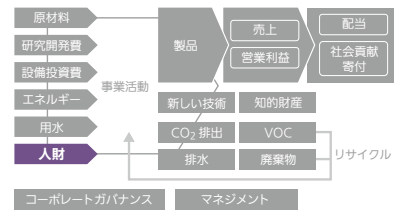
新入社員のグローバル教育

グローバル市場で活躍できる語学力を培い、国際経験を通じて異文化を理解することを目的に、2013年度、Nittoは全社採用の新入社員全員を海外研修に送り出しました。28名の新入社員は各自の語学レベルに応じて3つのコースに分かれ、海外の企業もしくは語学学校で4週間、語学を中心に学び、異文化交流を体感しました。

これを機に活動の輪を広げた社員も少なくなく、さらに向上心、探究心を高めて、今後活かしてくれると期待しています。



カナダ・バンクーバーの語学学校にて



児童労働と強制労働の禁止

グローバル市場では、しばしば児童労働・強制労働が問題化します。

Nittoグループは、「ビジネス行動ガイドライン」で児童労働および強制労働の禁止を明記しており、2013年度も児童労働や強制労働に関するいかなる問題もありませんでした。

人財育成

国内外のグループ会社から候補者を選抜し、将来の経営幹部をグローバルに育成するグローバル・ビジネス・アカデミー(GBA)は、2011年7月に開講した4つのコースから成る教育制度です。経営陣が直接教育に関与し、「グローバル化のセカンドステージ」で活躍できる「Nitto Person」育成の場となっています。

2013年度のGBA受講者数と内訳

コース	目的	受講者数	出身国・地域	
GBA-E	グローバル経営リーダーの育成	6名	タイ、米国、香港、日本	これまでに12名(外国人6名)が卒業。うち女性は1名。
GBA-A	各エリア・各事業の次世代リーダーの育成と交流	15名	台湾、米国、香港、ベルギー、韓国、シンガポール、インド、日本	これまでに49名(外国人28名)が卒業。うち女性2名。
GBA-F	グローバルに通用する次世代リーダー候補の育成	20名	日本、中国、台湾	2013年度受講者のうち女性は1名。
GBA-C	学習する組織を作るためのコア人財の育成	34名	日本	2013年度受講者のうち女性は5名。

2013年度は各国から計75名が参加しました。今後は、GBA-FとGBA-Cの2コースを各エリアで開催することを計画しています。



講師をつとめる社長の柳楽(当時)

グループワークの様子

また、Nittoグループに入社する際の基礎教育として、NCS(Nitto Group Cultivation System)を設けています。NCSには以下の6つが含まれており、各グループ会社で実施しています。

安全	5S	品質	CSR	環境	経営理念
----	----	----	-----	----	------

人権推進活動

私たちは、Nittoグループ人権基本方針のもと、人権を尊重した事業活動に努めてきました。日本では、2004年から人権問題の解決に取り組む大阪同和・人権問題企業連絡会に参加し、2013年度には会長企業として積極的に関わりました。

世界的に注目されているコンゴ民主共和国とその周辺国における紛争鉱物の取り扱いについても、2012年の方針制定により管理を強化しています。

紛争鉱物[※]の取り扱いに関する Nittoグループ方針について(抜粋)

- Nittoグループは、コンゴ民主共和国およびその周辺国における武装勢力の資金源とされる紛争鉱物[※]について、その使用を行わないことを方針とします。
- また紛争鉱物使用回避のため、継続的に精錬所の特定に向けて、努力します。
- 紛争鉱物に関するお客様からの問い合わせに対し、Nittoグループは、誠意をもって知りうる情報を提供します。

※紛争鉱物：タンタル(Ta)、タングステン(W)、スズ(Sn)、金(Au)のうち、コンゴ民主共和国およびその周辺国で産出され、深刻な人権侵害を行っている武装勢力の資金源になっている、と目されるものを指します。

